

IV 効率的・効果的な基盤整備

主担当部局(長)名
県土マネジメント部長 山田 哲也

目指す姿

経済の活性化、くらしの向上を図るため、「選択と集中」により、社会資本の管理、活用、整備をマネジメントし、安全・安心のための県土整備、交通環境の充実を図ります。

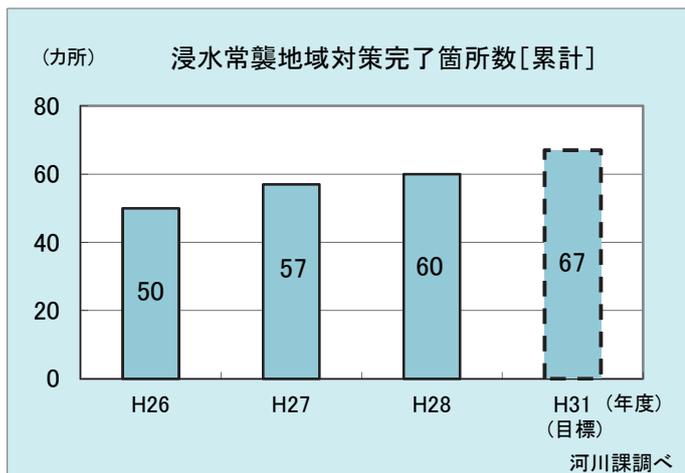


丹生バイパス開通式

これまでの成果

- ・平成28年8月に、国道309号丹生バイパスを完全供用しました。
- ・公共下水道施設の整備について、今後10年で概成を目指すため、平成28年6月に奈良県污水处理構想を策定しました。
- ・砂防関連施設の老朽化の状況を把握するため、平成26年度に実施した緊急点検に基づく砂防関係施設の健全度評価の結果で、優先度の高かった20施設への対応についての検討を行いました。

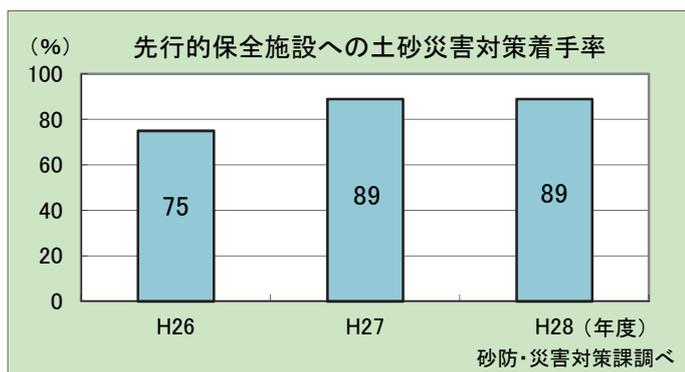
1. 政策目標達成に向けた進捗状況



目標	平成31年度までに浸水常襲地域において被害軽減のための減災対策を推進し、概ね7割の地域で対策を完了します。(H27年3月末:50カ所(52%)で対策完了)
取組	浸水常襲地域における減災対策緊急プログラムに基づき、平成20年度から浸水常襲地域(96カ所)の減災対策河川に対して、重点投資しました。
成果	平成28年度末時点で、浸水常襲地域96カ所のうち、60カ所で減災対策を実施しました。(実施率62.5%)

2. 戦略目標達成に向けた進捗状況

戦略目標	<p>①快適で便利な交通環境の実現を目指します。</p> <p>②生活環境の改善及び公共用水域の水質保全を目指し、平成31年度までに、污水处理人口普及率を92.0%にします。</p> <p>③平成31年度までに、先行的保全施設(避難所や要配慮者利用施設)約50カ所の土砂災害対策に着手します。</p>
------	--



取組	崩落やその兆候が見られる箇所の対策を最優先で取り組むとともに、避難所や要援護者関連施設等の防災上重要な施設が所在する箇所の対策を先行的に着手しました。(③)
成果	平成28年度末までに、先行的保全施設(避難所や要援護者関連施設)の土砂災害対策を全体の89%(40カ所)着手しました。残る施設(対策の必要がなくなった9カ所を除き5カ所)についても関係市町村との協議を進め、着手できるよう取り組んでいます。